

# 論破という病

倉本圭造（著）

単行本：320 ページ

出版社：中央公論新社

価格：1,210 円（税込）

## はじめに

近年、SNS や日常の議論において「論破」が快感や達成感をもって語られることが増えました。しかし対話によって関係を築くという本来の目的は見失われ、相手を打ち負かすことがゴールになると信頼関係は壊れ、建設的な議論は成り立ちません。本書は、そうした風潮に警鐘を鳴らしながら「メタ正義」という新たな対話の技法を提案しています。読者が感じているモヤモヤに、静かで深い答えを与えてくれる一冊です。

## 正しさのぶつけ合いでは、 社会は壊れていく

SNS などでは「相手を言い負かすこと」が目的となりがちです。その結果、異なる価値観を持つ相手が「敵」として扱われ、社会全体の分断が進んでいます。論破によって一時的な優位は得られても、信頼や対話の基盤は築かれません。議論が盛り上がる一方で、その後には続くはずの協力や共創が生まれにくくなっています。著者は、マッキンゼーから肉休労働現場、ホストクラブまで社会の多様な現場を経験した経営コンサルタントとして、この現実を目の当たりにしてきました。相手の立場を理解しようとする姿勢こそが、建設的な対話の出発点であり、これからの時代に必要な態度なのです。

## メタ正義とは何か

本書の中核となる「メタ正義」とは、自分の正義と相手の正義の両方を前提にし、それぞれの背景や目的を尊重する姿勢を指します。論点の正誤を競うのではなく、なぜ相手がそのように考えるのかを想像することが重要です。対話の入り口として、相手の意図に対して「賛成一步手前」で応じることが、合意形成の糸口になります。家族旅行の行き先を決める例では、パートナーが「沖縄に行きたい」と言った時、まず「青い海でリフレッシュしたいんだね」と背景を理解し肯定してから、建設的な話し合いに進む手法が紹介されています。家族や職場、

SNS など、立場の異なる人と関係を築く日常場面においても、この考え方は有効です。

## 「油と水を混ぜる」ための 日本的調整力とは

日本には、異なる意見や立場を正面からぶつせず、文脈や空気を読むことで調整する文化がありました。明確な結論を急ぐのではなく、あいまいさを活かして関係性を保つという感覚です。欧米型の論理や正義とは異なるこの調整力は、グローバル化の波の中で軽視されてきましたが、いま改めて見直す価値があります。メタ正義は、日本社会がもともと持っていたこうした「文脈的な対話」を、現代に応用し直す取り組みとも言えるでしょう。

## 対立を乗り越える力は創造から

真に乗り越えるべきは、相手そのものではなく、分断を生み出す構図そのものです。誰が正しいかを争うより、どうすれば一緒に前へ進めるかを問い直すことが大切です。対話を重ねることで、真逆の意見のあいだに、思いもよらない解決策が生まれることがあります。違いを否定するのではなく、違うからこそ生まれる可能性に目を向ける。そこに、対立を超えた共創の道が開けていくのだと思います。

## あなたにも育てられる、メタ正義の種

メタ正義は、特別な立場にある人だけが扱える考え方ではありません。日常の中で「なぜその人はそう考えるのか」と立ち止まって想像してみるだけでも、対話の質は変わります。論破よりも共感を選ぶ姿勢は、信頼という小さな芽を育てていきます。自分の考えを一步引いて見直す習慣は、他者との関係を豊かにする土台となります。社会を変えるのは、大きな主張よりも、こうした日々の小さな選択の積み重ねです。本書が示す道筋は、誰にでもできる第一歩として、静かに力を与えてくれます。